令和元(2019)年度事業報告

全体概要

令和元(2019)年度の研究助成事業については、財団創立40周年から、例年より多い国内研究助成(50件)、海外研究助成(9件)、国際会議および成果普及活動の援助、成果報告論文の刊行、助成金贈呈式、研究成果発表会の開催を実施した。

令和2年度の国内研究助成を募集し、選考委員会により例年並40件の研究助成を採択した。

財政については、日本板硝子㈱100周年特別寄付により大幅な寄付金収入増があり、事業活動収入は例年を大きく上回り、公益財団として主に国内助成件数増により研究助成金を厚くした。

1. 事業内容

1) 研究助成事業

(1) 国内研究助成

前年度に募集・選考した50件の平成31(2019)年度(第41回)助成対象研究につき、贈呈式を平成31(2019)年4月19日に開催し、研究助成金の贈呈を行った。研究助成金総額は54百万円とした。評価の高い継続助成候補テーマは3件であった。

令和2(2020)年度(第42回)研究助成事業については、令和元(2019)年8/1～12/10の募集期間で121件の応募を得た(主に過去応募数が多い大学からの応募が減少)。応募研究機関数は66機関(前年度73)であった。日本板硝子㈱からの寄付額が例年並みに戻ったため、また、予算編成状況も鑑みて、国内助成を40件、43.6百万円(実績)と例年並に戻した。(新規継続テーマ1件)

(2) 海外研究助成

助成対象大学・機関は昨年と同様、マレーシアの3大学(マレーシア技術大学、サインスマレーシア大学、マラヤ大学)・ベトナムの4大学・機関(ベトナム国立大学ハノイ、ハノイ工科大学、ベトナム国立大学ホーチミンシティ、ベトナム科学技術アカデミー)・ブラジルの3大学・機関（サオカルロス大学、アエロノーティカ研究所、サオポール大学）の、10大学・機関とした。

応募総数62件(昨年-1)＜マレーシア54(同+6)、ベトナム8(同-5)、ブラジル0(同-2)＞から9件(同11件)を採択し、助成総額約51.6千米ドルを贈呈した。内訳はマレーシア7/ベトナム2。応募要領見直しから昨年20件ほど減少したマレーシアからの応募がまた増加に転じた。ブラジルは応募なしであったが、今年度はこのまま様子を見たい。

2) 国際会議等の助成事業

国際会議助成は9件1.5百万円を、成果普及助成は10件1.7百万円を実施した。新型コロナウイルスによる学会中止で辞退もあった。

3) 成果普及事業

平成28年度助成研究の成果をまとめ、第37号成果報告書を刊行し、全国主要大学やその図書館等に寄贈した。また、40件の成果報告の中から5名を講師として選び、「第37回無機材料に関する最近の研究成果発表会」を令和2年1月27日に東京で開催した。更に、寄付会社を中心に研究成果の紹介活動を行った。

2 財政基盤

1) 収支決算

(1) 予実対比で円高となり、基本財産及び特定資産の利息収入が共に減少したことにより、資産運用収入全体としては予算を1.6百万円下回った。

寄附金収入は日本板硝子㈱から100周年特別寄付があり、例年を大きく上回った。予算51百万円に対しては、日本板硝子㈱を始めとする法人26社、個人13名より計52.3百万円(前年度36.4百万円)の寄付があり、予算を約1.3百万円上回った。

また、研究が環境的に続けられない理由による助成金返納が1件あり、雑収入として約950千円あった結果、事業活動収入合計は予算94.3百万円に対し約95.0百万円とやや収入増となった。

(2) 事業活動支出については事業費が予算80.8百万円に対し78.7百万円と約2.1百万円少なく、管理費は予算11.0百万円に対し、実績12.0百万円と920千円ほど多かった。収入大幅増から、公益財団法人として、予算段階から国内研究助成金増額(件数増)を中心に、海外研究助成やその他助成も増額したが、実績は予算をやや下回った。その他の項目は増減はあるものの、概ね予算並であった。

(3) この結果、事業活動支出合計は、予算91.8百万円に対し約90.6百万円と予算をやや下回った。以上の結果、事業活動収支差額としては予算の＋2.49百万円に対して＋4.33百万円となった。

(4) 投資活動収入は、まず3月末に急遽早期償還となった三菱UFJ証券の仕組債の取崩(売却)収入として46.5百万円。また、研究基金取崩収入として24.1百万円、昨年取得した三井住友信託銀行米ドル定期預金が5月、1月と3月に満期になったものである。他に上記仕組債簿価差益と米ドル定期為替差損計が2.96百万円あり、これらは来年度用海外研究助成金及び再投資に使用した。

(5) 投資活動支出は、上記早期償還仕組債再投資としては、新型コロナウイルスで混乱中を鑑み、三井住友信託銀行スーパー定期50百万円購入した。改めて再投資先を検討予定。更に、退職引当金1百万円と研究基金25.6百万円を取得した。上記研究基金取崩収入の再投資と毎月MMF利金の再投資及び3月には当年度余剰金を加えて、また米ドル定期預金取得した。その結果、投資活動収支差額は▲約3.05百万円となった。

(6) 以上の結果、収支計算書における次期繰越収支差額は22.2百万円(予算18.1百万円)となった。

2) 資産及び正味財産

(1) 総資産は、時価評価で総額11億91百万円、うち基本財産9億36百万円、特定資産2億33百万円であった。正味財産は、指定正味財産16.6百万円、一般正味財産11億69百万円で、当期の正味財産合計の増減額は▲3.5百万円であった。

(2) 「無機材料研究助成基金(個人寄付基金)」制度に基づく個人寄付は、過去からの累計で、総額9.09百万円、64人となった。

3 その他

1) 役員等の異動

(1) 選考委員

今期は改選時期ではなく、平尾委員長以下、藤嶋委員、安田委員、細野委員、後藤委員、水本委員、藤田委員、井上委員、8名全員留任である。

(2) 評議員、理事、監事(2019.6.3.付　敬称略)

・評議員　：改選時期ではなく、特に異動なし。
・理事退任：財団規定により、以下次の2名が退任された。牧島亮男、谷口博保
・理事就任：定期改選時期であり、以下の方々が理事に就任された。
平尾一之(新任)、冨田良幸(新任)、安田榮一(重任)、田中千秋(重任)、
斉藤靖弘(重任)、前田浩一(重任)、藤本勝司(重任)

2) 令和元(2019)年度の理事会は、下記の通り開催した。

令和元年 5月17日：主に平成30年度事業・決算報告。研究助成選考方針、評議員会招集、理事及び監事の定期改選、職務執行報告など
令和元年 6月03日：理事長/専務理事の選定。(同日午前の評議員会で理事定期改選承認を受け)
令和元年 6月17日：（理事会の決議の省略による書面決議）：第153期日本板硝子株式会社定時株主総会における議決権行使。
令和元年11月15日：職務執行概要報告(理事長)、同状況報告(専務理事)
令和２年 3月09日：令和2年(2020)年度事業計画及び予算審議、国内研究助成金贈呈対象者の承認、株主の議決権行使、助成金贈呈式の開催・延期・中止。令和元年度予実見込の報告など
令和２年 3月18日：(理事会の決議の省略による書面決議)：新型コロナウィルス感染の現状を鑑み、4/20開催予定だった研究助成金贈呈式を延期する。

3) 令和元年度の評議員会は、下記の通り開催した。

令和元年 6月03日：平成30年度事業報告・決算の承認。理事の定期改選(2名新任、5名重任)のの承認。監事の定期改選(2名重任)の承認。令和元年度事業計画及び予算、選考委員改選などの報告

4) 令和元年度の選考委員会は、下記の通り開催した。

令和元年 5月14日：令和元年度募集要項と選考方針の審議
令和元年12月23日：国内研究助成案件選考分担決定、海外研究助成案件審議及び採択
令和２年 2月28日：令和2(2020)年度国内研究助成案件審議および採択

ー以上ー